

< O S A K A 女性活躍推進会議の取組と成果について >

問1 (O S A K A 女性活躍推進会議の取組と成果について)

大阪府では、オール大阪で女性の活躍推進の機運を盛り上げるため、平成27年7月に「 O S A K A 女性活躍推進会議」を設置し、これまで3年間、取組を進めてこられた。

この間、平成28年4月には女性活躍推進法が完全施行され、大阪だけではなく全国的にも女性活躍推進の重要性は増している。

このような中で、「 O S A K A 女性活躍推進会議」のこれまでの3年間の取組と、その成果について、改めて伺う。

【男女参画・府民協働課長】

- 委員お示しのとおり、これまで、本府では、女性の活躍を推進する様々な施策の一体的・効果的な展開が一層図れるよう、産官学等で構成する「 O S A K A 女性活躍推進会議」を設置・活用し、取組を進めてきた。
- 具体的には、会議を設置した初年度の平成27年度には、構成団体が一堂に会して「女性が輝く O S A K A 行動宣言」を発表し、その中で、男女が持てる力を存分に発揮し、あらゆる分野で活躍できる元気な大阪をめざす方向性を確認した。
- 翌年平成28年度からは、「 O S A K A 女性活躍推進会議」を女性活躍推進法に基づく「協議会」として位置づけるとともに、毎年9月を「 O S A K A 女性活躍推進月間」に設定し、女性の活躍推進に関するイベント等を集中的に実施してきている。
- 3年目となる今年度は、ドーンセンターを活用し、
「 O S A K A
⇒次へ

A女性活躍推進 ドーン de キラリフェスティバル 2017」をはじめ、職場における女性活躍推進を担うリーダー養成講座「OSAKA輝（キラリ）塾」など、構成団体や庁内関係部局と連携して多彩な啓発事業を実施した。

- こうした取組により、フェスティバル開催時のドーンセンターの来館者は、3,000人を超え、普段の来館者数より1,000人以上の多くの方々に来ていただいた。また、メインシンポジウムの参加者アンケートでも9割以上の満足度となるなど、女性活躍推進の機運醸成について一定の成果があったものと考えている。
- このような成果は、産官学等が相互に連携する「OSAKA女性活躍会議」を活用して、オール大阪で取り組むことで実現できたものと考えている。

問2 （平成30年度の取組）

昨年9月に開催された「OSAKA女性活躍推進 ドーン de キラリフェスティバル 2017」については、当日私もセミナーに参加した。多くの府民の方が女性活躍推進について知る大変よい機会だったと思っている。

今後は、これまでの「OSAKA女性活躍推進会議」の取組の成果を踏まえ、継続・発展させていくことが非常に重要だと考えるが、平成30年度はどのような取組を行なっていくのか。

【男女参画・府民協働課長】

- まず、今年度初めて実施した「ドーン de キラリ フェスティバル」については、多くの来館者が訪れ、アンケートでも好評であったことから、引き続き、9月のOSAKA女性活躍推進月間のメインの行事として実施していく。

- また、「OSAKA輝（キラリ）塾」については、これまでの女性活躍推進リーダーの養成に加え、女性社員の仕事へのモチベーションアップや離職防止を図るため、他社の女性社員やあの人のようになりたいと思えるロールモデルと出会える交流会を新たに開催する。

- さらに、「OSAKA女性活躍推進会議」において、若者が、女性の直面するライフイベントと仕事との両立に関する知識を得る機会が乏しいという指摘があったことを踏まえ、高校生や大学生を対象に、ライフデザインの描き方について学ぶセミナーを新たな取組として実施する。

- 今後とも、これらの取組を着実に実施するとともに、女性活躍推進の取組をさらに発展させ、女性があらゆる分野で活躍し、さらなる元気な大阪を目指していく。

問3 (女性活躍推進に向けた意気込み)

「OSAKA女性活躍推進会議」のこの3年間の取組・成果と、平成30年度
の取組についてご説明いただいた。

私としては、これらの取組を着実に進めていくためには、リーダーの思いが非
常に大事だと思う。そこで、最後に、女性活躍推進に向けて、府民文化部長の決
意をお伺いする。

【府民文化部長】

- 少子高齢化や人口減少社会において、社会の活力を維持してい
くためには、個性に応じた多様な能力を発揮できる社会の構築が
不可欠であり、とりわけ、最大の潜在力とされている女性の能力
を活かす、女性活躍推進の取組が重要だと認識。

- そのため、これまでも、産官学等で構成する「OSAKA女性
活躍推進会議」や庁内関係部局と連携し、企業トップの意識改革
や機運醸成、女性が働きやすい環境整備等、社会のニーズも踏ま
え、幅広く施策を展開してきたところ。

- 今後とも、これらの関係機関としっかり連携し、女性活躍の拠
点であるドーンセンターを最大限活用しながら、男女が持てる力
を存分に発揮し、あらゆる分野で活躍できる元気な大阪の実現に
向け、強い思いを持って、着実に取組を進めていく。